


分野	62	都市経営	通番 147
施策	623	パートナーシップ	
5年後の目標		対話を通じて、多様な主体が自立的にまちづくりに参画している。 広域的な連携のもと、充実した行政サービスが提供されている。	

概要								
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目			決算額(円)	担当課	
	市長と語る対話のわ事業		会計	款	項	目	10,886	広報発信課
			一般	2	1	2		
事業の概要								
市民や団体と市長の直接対話を通して、市の現状や課題、ニーズを把握し、広く行政施策に反映させながら、市民と共に考え、まちづくりを進めます。								

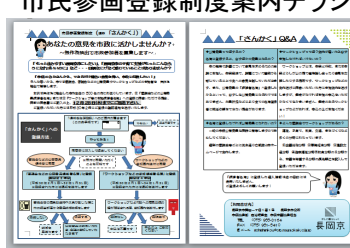
平成30年度の取組							
D (取組)	指標	市長と語る対話のわの開催回数				単位	回
	現状 (計画策定時)	年度	28	29	30	1	2
		目標	10回以上	10回以上	10回以上	10回以上	10回以上
	15回(平成27年度)	実績	20回	19回	19回		
<ul style="list-style-type: none"> ・より多くの市民に参加してもらうため、地域コミュニティなど全小学校区単位での開催を中心に、団体や一般公募での「対話のわ」なども行い、市広報やホームページなどで広く呼びかけを行いました。 ・より広く市民と市政情報を共有するため、各回の議事内容やその後の展開などをホームページで公開しました。 ・対象団体やテーマに応じて、関係各課への出席を促したり、結果報告を行うなど、「対話のわ」で出された意見が市政運営に活かされるよう取り組みました。 							
							
対話のわの様子							

施策の「5年後の目標」に対する評価				
平成30年度の達成状況				
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応頁
			—	—
C (評価)	達成度合	A: 目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)	<ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度の市長と語る「対話のわ」は、目標回数を大きく上回る19回開催し、総勢677名の参加がありました。参加者が少数だった会もありましたが、各回、様々な課題について積極的な意見交換が行われ、参加者と市政の情報を共有することで市政に関心を持ってもらうことができました。また、避難所施設の改善など出された意見が反映された事例も多くあり、市政運営への市民参画が進められました。 	
	課題等		<ul style="list-style-type: none"> ・今後も引き続き、市民との協働したまちづくりを実現していくため、幅広い年齢層やこれまで対話の場を確保できなかった団体向けに意見交換を行う機会を確保していく必要があります。また、より意見の出しやすい「対話のわ」とするために、開催手法やテーマ設定に工夫が必要です。 	

目標達成に向けての次年度以降の対応	
A (行動)	対応策等
1: 計画通りに進めることが適当	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き「対話のわ」の開催を広く呼びかけていきます。また、開催手法については、他の事業との共同開催や身近なテーマ設定を行うなど、集客や事業周知の相乗効果を意識した事業展開を工夫していきます。

分野	62	都市経営	通番 148
施策	623	パートナーシップ	
5年後の目標		対話を通じて、多様な主体が自立的にまちづくりに参画している。 広域的な連携のもと、充実した行政サービスが提供されている。	

概要							
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目		決算額(円)	担当課	
	市民公募委員推進事業		会計	款	項	0	自治振興室
			一般	2	1		
事業の概要							
無作為抽出方式による「市民参画登録制度」を活用し、計画策定等により幅広い市民の参画を推進します。 あわせて、各種団体推薦枠を見直すことにより、団体役員の負担軽減を図ります。							


平成30年度の取組								
D (取組)	指標	市民公募委員の参画がある審議会等の比率					単位	%
	現 状 (計画策定時)	年度	28	29	30	1	2	
		目標	95.0	100	100	100	100	
	89.7(平成26年度)	実績	87.1	87.9	88.9			
<ul style="list-style-type: none"> 市広報誌・市ホームページにて、公募委員の募集を市民に周知しました。 あらゆる分野で市民が意思決定に参画できるしくみづくり、市民の意見をまちづくりに反映するため、審議会等の設置・委員改選時に市民公募委員を入れているかを確認する「審議会シート」を各課から提出してもらい、公募委員の参画を推進しました。 「市民参画登録制度(通称:さんかく)」を活用することで、審議会等においての市民参画、ワークショップへの市民参加を推進しました。庁内では協働ニュースの発行やインフォメーションに掲載するなどして周知を行いました。 					市民参画登録制度案内チラシ 			

施策の「5年後の目標」に対する評価					
平成30年度の達成状況					
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応頁	
		—		—	—
	達成度合	B: 目標をほぼ達成できた(目標の80%~100%程度)	達成状況	<ul style="list-style-type: none"> 平成30年度末現在、行政委員会と休会中及び審議内容に専門的な知識を必要とする審議会等を除く27の審議会等のうち、24で公募委員が採用され、採用率は88.9%でした。残り3つについて、改選が平成30年度にはなかったまたは公募したが応募がなかったため市民公募委員の採用がありませんでした。 平成29年度に引き続き、「審議会などの公募委員候補者名簿」に15人、「ワークショップなどの参加候補者名簿」に47人登録いただいています。 市民参画登録制度を活用し、平成30年度中に1人が委員に就任しました。 「長岡京市立図書館のめざす将来像を考えるワークショップ」において、案内を送付した「ワークショップなどの参加候補者名簿」登録者47人のうち、6人がワークショップに参加しました。 	
課題等			引き続き、市民委員公募の推進と、登録制度の名簿について審議会等の委員のみではなく、ワークショップ等での意見聴取の参加案内の送付の際にも活用できる旨を庁内に周知させていく必要があります。		

目標達成に向けての次年度以降の対応	
方向性	対応策等
A (行動)	1: 計画通りに進めることが適当 <ul style="list-style-type: none"> 公募委員の採用がなかった審議会等の所管課に対し、公募委員の採用を促します。 「市民参画登録制度」の庁内外へのさらなる周知を図ります。 ワークショップ等市民の意見を聴取するための事業の参加案内送付にも登録名簿の利用が可能であることを庁内に周知を図ります。

分野	62	都市経営	通番 149
施策	623	パートナーシップ	
5年後の目標		対話を通じて、多様な主体が自立的にまちづくりに参画している。 広域的な連携のもと、充実した行政サービスが提供されている。	

概要								
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目			決算額(円)	担当課	
	コミュニティFM事業の推進		会計	款	項	目	17,630,000	広報発信課
			一般	2	1	2		
事業の概要								
市政情報や市民活動情報など、誰もが発信者として参加できるプラットフォームの整備を目的に、その情報発信基盤となりうるコミュニティFMの開局を支援します。また、情報発信メディアとしての効果的な活用を推進し、市内外に向けた市の魅力発信を行います。 あわせて、災害時における防災協定の締結など、市民の安心・安全を守るために連携強化を図ります。								

平成30年度の取組								
D (取組)	指標	コミュニティFM開局支援				単位	—	
	現 状 (計画策定時)	年度	28	29	30	1	2	
	平成30年度 新規事業	目標	/			コミュニティFM開局支援	法人との「コミュニティFM運営協定」に基づく指標設定	法人との「コミュニティFM運営協定」に基づく指標設定
		実績				コミュニティFM開局		
<ul style="list-style-type: none"> ・ FMおとくに開局のために、京都府及び関係機関等の調整を行い、スタジオ及び送信所の設置協議等での支援を図りました。また、開設支援のための補助金を交付しました。 ・ コミュニティFMを活用した長岡京市の情報発信番組「かしこ暮らしっくアワー」では、市民及び市民団体の参画を積極的に図ることで、誰もが発信者として参加できるプラットフォームとして整備しました。 ・ 災害時の情報発信方法について協議を行い、3月にはFMおとくと連携しシェイクアウト訓練を実施しました。また、災害時における防災放送の具体的運用について法人との協議・検討を行いました。 								
ラジオの収録の様子								

施策の「5年後の目標」に対する評価				
平成30年度の達成状況				
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応頁
		—	—	—
C (評価)	達成度合	A: 目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)	達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ FMおとくにへの開局支援をした結果、平成30年12月に開局をすることができました。 ・ 市の番組である「かしこ暮らしっくアワー」が開始したことで、新たな市政情報の発信媒体として活用することができました。また、市民出演の機会創出の強化を図ることで、誰もが発信者として参加できるプラットフォームとしての整備に寄与しました。 ・ FMおとくと連携してシェイクアウト訓練を実施したことで、市民のFMに対する認知度の向上を図ることができました。
	課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・ FMおとくにが開局して間もないことから、市民の認知度は低い状況です。災害時にコミュニティFMを最大限活用するためには、平時からコミュニティFMを聞いてもらうことが必要となります。 		

目標達成に向けての次年度以降の対応		
A (行動)	方向性	対応策等
	1: 計画通りに進めることが適当	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市の番組である「かしこ暮らしっくアワー」で市民及び市民団体の積極的な参画を図り、FMおとくにに関係する人口を増加させます。 ・ FMおとくにの認知度を向上させるために、市のイベント等で法人と連携した企画を実施します。 ・ 災害時の具体的活用を協議・検討し、災害時の市民の安心・安全を守るための有効な活用を図ります。